



体育館の「あそびのひろば」で紙粘土遊びを楽しむ子どもたち。NPOしやりやNPO所沢市学童クラブの会の皆さん、さいたまコープの組合員、職員と一緒に遊んだ(7月17日)。

避難所で発揮される生協の力

さいたまコープ

さいたまコープは地震発生以来、義援募金の取り組みや被災地の生協を通じての職員の派遣、5月からは毎週4人前後の職員ボランティアを南相馬市に派遣し、がれきの片付けや泥だしなどの支援活動を続けている。また、福島県双葉町などの皆さんが避難している埼玉県加須市の旧騎西高校では、さいたまコープも協力し、食材の提供や炊き出しのほか、子育て応援の子育てサロンやイベントなどを行なっている。今回、参加とネットワーク推進室・地域ネットワークの福岡和敏部長に、旧騎西高校避難所での取り組みの内容を聞いた。

キーワードは
「つなげよう 笑顔」

「生協さん、頼みがあるんだけど……」と、避難所で声を掛けていただくことが多くなりましたね」

福岡さんは笑顔を見せる。

当初、福島県双葉町などの皆さん約1,400人が避難してきた旧騎西高校避難所は、東武伊勢崎線加須駅から車で10分ほど。周囲には田んぼが広がる。

「騎西高校は、廃校になってから映画やドラマの撮影に使われるなど話題も多い所なのですが、にぎやかな地域ではないので避難されている方々は心細くて不慣れな思いをされていますよね。『地域ネットワーク』と名付けられた当部署は、偶然にも2011年3月11日に『地域の中で生協が果たしていく役割の具体化』を目的に発足しました」

さいたまコープでは、「つなげよう 笑顔」を掲げ、被災者支援に力を注ぐ。しかし、最初から生協の力を100%発揮できたわけではなかった。

「実は、『生協さんは(手伝ってくれなくても)いいですよ』と言われてのスタートだったんです」と福岡さんは打ち明ける。

避難所の声に耳を傾けて

震災後に福島県などから避難した皆さんの、さいたまスーパーアリーナでの生活は3月末で終わり、県内の施設を利用した避難所への移動が行なわれた。避難所では地元の社会福祉協議会や青年会議所が中心となって活動しており、春休みの学生たちのボランティアも多かった。

「初めは何をしいのか分からない状態だったんです。でも、とにかく各地の避難所に足を運んで生協にできることを考えて



さいたまコープ
参加とネットワーク推進室
地域ネットワーク
部長 福岡和敏さん

東日本大震災復興支援

つなげよう 笑顔



「子育てサロンふれあい広場」の様子。



避難所の子どもたちが通う騎西小学校の遠足に弁当を提供した。

いました。すると、保護者たちの間に『栄養バランスが崩れたことで』口角炎になる子どもが増えた』『いつも高カロリーのお弁当では食べにくい』などの声が多いことが分かってきました。毎日、3食が必ず提供されるのはいいことなのですが、どうしても栄養が偏ってしまうんですね。野菜やさっぱりしたのも食べたいという要望があり、私たちは、汁物の炊き出しをしてはどうかと考えました」

そこで、さいたまコープから、旧騎西高校避難所内に設置されている双葉町役場出張所に提案したところ受け入れられ、本格的な支援がスタートした。

「生協が、組合員さんや職員、職員OB、OGなどにボランティア参加を募り『避難所応援隊』を結成して、まずは野菜が多く入った具だくさんのみそ汁を作る炊

き出しから始めました。こうした取り組みを通じて、何が必要なのかを考えていました。炊き出しの配膳など、直接双葉町の人たちと触れ合う中で、みそ汁の味付けが薄いか、福島郷土料理が食べたいなどのニーズが分かってきました」

そこで、避難所の皆さんにも手伝ってもらうことを思い付く。郷土料理は郷土の人間でなくては分からない。また、調理に参加してもらうことはコミュニケーションには絶好の機会だ。

「郷土料理を教えてもらったり、調理に加わってもらえたら、と思いました。イカにんじん（スルメとにんじんで作る松前漬けのようなもの）や、きのこ汁など『福島島の味』を教えてもらい、皆さんに食べていただきました。もちろん大好評です」

さいたまコープでは、この他にも避難



炊き出しメニュー。暑い日が続いたので、冷たいメニューは大人気。「冷汁」は後からわざわざ「おいしかった」と言いに来てくださった方も。



された皆さんの子育て応援として旧騎西高校での「おやこひろば」の開催、4月半ばからは、地域の騎西コミュニティセンターでの「子育てサロンふれあい広場」の月2回の開催にも協力している。ここは、避難された皆さんと加須市の子育て中の親子が交流し、子どもを遊ばせたり、親子でゆっくり過ごせる場で、子どもの成長を記録する「すくすくデー」なども実施している。

こうした中で、日本ユニセフ協会も参画して、子どもたちのための「レクリエーションキット」、牛乳、野菜飲料、ヨーグルトやパン、運動靴などの提供や、JAGグループさいたまによる野菜の提供や炊き出しの協同、子育て応援のNPOの協力などが次々と決まっていた。

避難所で「学ぶ」

地域ネットワークでは双葉町、加須市の職員と週に一度の割合でミーティングを実施し、避難所内の生活についてニーズを把握、課題化している。

「その中から、例えば『弁当や炊き出し中心で、高カロリー、運動不足のため定期的に血液検査をしている』とのお話がありました。そこで、3食ともご飯食のお弁当ではカロリーが高いし、夏は弁当が傷みやよくなることもあり、朝食をパン食にしてはどうかと提案させていただき、8月からはクロワッサンなどをお届けしています。生協のLパン（ロングライフパン）はおいしいし、長持ちしますから、最適だと思えます」

このほか、避難所の子どもたちが通う騎西小学校の遠足や学校行事の弁当をコープ北本店の職員ボランティアが作ってお届けするなどにも取り組んだ。

また、「自分で食品を選んで子どもたちに食べさせたい」という保護者たちの要望により、法人登録での生協の宅配や「あったまる便」の利用も始まった。

「地域に関わり、地域で役割を發揮すること

の大切さを、避難所の人たちからあらためて教えていただいた気がします。若い職員たちにも、自分たちの仕事が地域に関わっていたんだという実感を与えてもつづいていきます。われながら、生協つてなかなかやるじゃないかと思いました(笑)―

手作りのイベントの温かさ

7月17日の日曜日には、「避難所応援隊」による昼食の炊き出しのほか、さいたまコープの組合員や職員のボランティアが、おにぎりコンテスト、交通安全教室、ふれあい喫茶を、また、NPOしやりやNPO所沢市学童クラブの会の皆さんの協力による「あそびのひろば」などのイベントが開催された。

炊き出しのメニューは「冷汁」と冷やしトマト、デザートにヨーグルトが用意された(P.26写真)。「冷汁」はだし汁にきゅうり、みょうが、青しそ、ツナ缶詰を入れ、水で冷たくしたもので熱中症対策にもぴったりの一品だ。この日は35℃を超える猛暑日だったこともあり、大好評だった。日曜日なので外出する人も多かったが、トマトとヨーグルトは戻ってきてから食べたいというリクエストにも



「少しでもほっとできるひとときを」と話す、「ふれあい喫茶かすかべ」の藤田康子さん。



おにぎりコンテストに参加した子どもたちの表情は真剣そのもの。

対応できた。食材はJAグループさいたま、ヨーグルトは日本ユニセフ協会から提供されている。

おにぎりコンテストでは、子どもたちが慣れない手つきで一生涯命作った逸品が並び、交通安全教室では子どもたちが実際に運転席に座ってドライバークラッシュの死角について説明を受け、参加賞のアイスキャンディーをほおぼっていた。組合員によるふれあい喫茶では、リラクセス効果があるとされるラベンダーのポプリを作る教室を開き、参加者はコーヒーや紅茶を飲みながら2枚のフェルトを組み合わせてポプリ袋を作っていた。

また、あそびのひろばでは昔懐かしい「ペーゴマ」も登場し、子どもたち以上に熱中する高齢の方の姿も。福岡さんは「手作りのイベントです。組織を越えていろんな人たちとつながっているからできることなんです」と話した。



コープデリ宅配センターの職員による交通安全教室体験中。右からさいたまコープ組合員の娘さん、双葉町のこども。

さらなる課題も

福島県内では仮設住宅の建設が進んでいるが、放射線の影響を考慮して居住をためらう人も多い。特に小さな子どものいる保護者の不安は大きく、仕事のある者だけが福島に残らざるを得ないようだ。こうして離れ離れになってしまった家庭への支援も、今後の課題の一つだ。福岡さんは、

「七夕にはボランティアが笹飾りを作り、子どもたちが短冊を書いたのですが、願いは『リーガーになりたい』でも『ケーキ屋さんになりたい』でもなく、『双葉町へ帰りたい』でした。こうした子どもたちの心のケアや、勉強の遅れの挽回などの支援も必要になります」と語る。

課題はまだある。埼玉県内で「避難所以外」に住む方々の支援だ。旧騎西



ふれあい喫茶では、ラベンダーのポプリ作りに挑戦。

高校には多くの皆さんが集まり、役所の出張所もあるので情報も入手しやすいが、知人宅やアパートに身を寄せる人も

「双葉町という地域が丸ごと、高校だった建物に入っている状態ですから、通常見落としがちな地域ニーズを引き出すこともできます。でも、それ以外の人たちは孤立しがちです。今後は「避難所以外」の方々に行政や他団体と協力して支援ネットワークを広げていくことが必要です。生協の組合員施設を利用していただいたり、手数料無料の個配などで生協とつながりを持っていただくことで、『避難所以外』の支援も進めたいと思っています。まだまだ課題は山積みですが、みんなで協力して乗り越えていきたいと思います」と福岡さんは意欲を見せた。

(文 荒川和巳)

※2 さいたまコープの組合員によってコーププラザ春日部で月1回開催されているふれあい喫茶。ふれあい喫茶は18カ所の組合員施設で開催され、高齢の方や子育て中の方など、誰でも気軽に参加できる。